

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 6 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370477

研究課題名(和文) ニジェール・コンゴ語族における動詞構造と統語に関する類型論的研究

研究課題名(英文) Typological Studies of Verb Constructions and Syntax in Niger-Congo Languages

研究代表者

小森 淳子 (Komori, Junko)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・准教授

研究者番号：10376824

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：

本研究では、ニジェール・コンゴ語族の動詞構造について、諸言語を比較して典型的にとらえ、その特徴を解明することを目的とした。バントゥ諸語、ヨルバ語、バンバラ語について、現地調査や文献研究、インフォーマントからの聞き取り調査をおこない、分析、議論を進めた。

バントゥ諸語については、派生形による他動詞・自動詞の派生関係や主題文の構造について明らかにした。また、ヨルバ語については、「動詞連続構文」と呼ばれる構文の分析をおこない、その特徴を明らかにした。バンバラ語については、形容詞と関係節の特徴について明らかにし、動詞の自他対応や受動態の分析を進め、バンバラ語の動詞の特性について明らかにした。

研究成果の概要(英文)：

The aim of this project is to do typological studies on the verbal constructions of the Niger-Congo languages. We especially focus on Bantu languages, which are the typical agglutinative languages and have rich derivational systems on verb forms, and Yoruba language, which in turn, is lack of morphological derivations of verbs, and Bambara language, which shows peculiar properties on the morphological and syntactical verbal constructions among the Niger-Congo family.

We did fieldworks in Kenya, Tanzania and Namibia for the research on Bantu languages, and we analyzed the alternation of transitive and intransitive derivations and the topic constructions. We also examined the “serial verb constructions” on Yoruba, and we conducted the research on Bambara data collected from a native Bambara speaker in Japan, and clarified the properties of “adjectives” and “relative constructions” of Bambara, which are in the close relations with the verbal constructions in Bambara.

研究分野：アフリカ言語学

キーワード：言語学 ニジェール・コンゴ語族 ヨルバ語 バンバラ語 バントゥ諸語

1. 研究開始当初の背景

アフリカには 2000 を数える言語があるが、その 3 分の 2 にあたる言語がニジェール・コンゴ語族に分類されている。ニジェール・コンゴ語族というのは、半世紀前に米国の言語学者グリーンバーグが提唱した分類であり、グリーンバーグ以降も修正され続けている下位の語派・語群の分類と合わせて、アフリカの広域で多数を占める言語を大きく捉えるには有効な分類である。

グリーンバーグ以降、国内外のアフリカ言語研究者により、アフリカでの記述調査が進み、個別の言語の調査や研究は格段に進化した。しかし、ニジェール・コンゴ語族全体の特徴を広く概観し、その類型的な特徴を明らかにするという取り組みはまだ始まったばかりである。海外の成果に概観的なものとして、*The Niger-Congo Languages* (Bendor-Samuel, J.(ed.), 1989) という労作があり、ニジェール・コンゴ語族の概説と下位の語派や語群の概略が紹介されているが、それぞれの語派や語群の説明における個別の文法事項については、1、2 ページが割かれている程度であり、ニジェール・コンゴ語族全体の文法特徴を捉えるのはまだこれからの作業であることが分かる。

ニジェール・コンゴ語族を特徴づけるのは基礎語彙と、名詞の分類体系である「名詞クラス」、そして動詞構造であると言われていた。個別の言語研究において、それぞれの特徴は明らかにされつつあるが、ニジェール・コンゴ語族全体を俯瞰して類型的に捉える取り組みが求められている。

特に動詞構造については、動詞が変化せず「孤立語」的な特徴をもち、統語によって動詞と項の関係や態を表す言語がある一方で、バントゥ諸語に代表されるように、動詞にさまざまな接辞をつけて変化させ、動詞でもって項との関係や態を表す言語がある。このように、個別言語の記述が進んで明らかになってきたそれぞれの動詞構造のデータから、一見さまざまに異なる構造をもつ動詞について、ニジェール・コンゴ語族全体に通底する普遍的特徴とは何かを明らかにすることが、次の段階として求められている。

2. 研究の目的

上記の背景から、本研究では、ニジェール・コンゴ語族の文法特徴のうち、もっとも変化に富み、多様である動詞構造について類型的にとらえ、その特徴を解明することを目的とする。

ニジェール・コンゴ語族の動詞構造の類型をみる時、その両極に位置すると考えられるのがバントゥ諸語とヨルバ語である。バントゥ諸語は多様な動詞派生接辞をもち、複数の派生接辞を動詞語根に膠着させて動詞を変

化させる。一方ヨルバ語は、動詞に付着する接辞をもたず、基本的には動詞が変化しない孤立語的類型を示す。

バントゥ諸語とヨルバ語は下位分類のベヌエ・コンゴ語派に属しており、語族全体の中では系統的にも地理的にも比較的近い言語であるが、それでもこのような両極に位置する形態的な特徴を示していることは、動詞の形態的な構造とそれに関する統語的特徴が流動的で変化しやすいことを表している。さらに、ニジェール・コンゴ語族の諸言語がこの両極の間に位置するような、動詞構造に関する類型的なスケールを想定することができる。

受動態や使役文、あるいは自動詞と他動詞の交代などをどのような動詞の形態、あるいは統語によって表すのかということ、動詞構造や統語的な特徴が大きく異なる諸言語を比較することによって、語族全体の動詞の形態と統語に関する類型的で普遍的な特徴を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

具体的には、海外調査地でのフィールドワーク、文献からのデータ収集、国内にいるインフォーマントからの聞き取り調査などをおこなって、動詞構造に関する記述をおこない、包括的な分析と議論をおこなうという方法をとった。研究の遂行にあたっては、次の 3 点を計画の柱とした。

海外調査によるフィールドワーク、ならびに文献研究をおこなった。

(実際に派遣した研究者・派遣先)

- 1) 研究分担者：米田信子
・ロンドン大学でのバントゥ諸語文献研究 (2015/3/13-19)
・ナミビアでのヘレロ語調査 (2015/12/20 ~ 2016/1/2)
- 2) 研究協力者：林愛美
ケニア・ナイロビのスワヒリ語調査 (2013/8/13 ~ 2013/9/13)

バンバラ語の調査のため、国内にいるマリからの留学生(バンバラ語話者)にインフォーマントとして協力してもらい、バンバラ語の聞き取り・録音調査をおこなった。(2013年9月、2014年3月、2015年1月)

国際会議での討論と交流(開催援助)

The 8th World Congress of African Linguistics (京都大学、2015/8/20-24) の開催にあたり、開催援助という形で参加し、海外からの研究者を招へいた。また、発表をして討論をし、海外の研究者たちと交流を計った。

4. 研究成果

バントゥ諸語については、これまでの研究の蓄積に加えて、さらに海外調査によって、スワヒリ語、マテング語、ヘレロ語のデータを加え、動詞構造と構文の関係について分析を進めた。バントゥ諸語では自動詞・他動詞の区別を動詞の派生形接辞でおこなうことが多いが、動詞の自他対応について、他動詞から自動詞を派生させる接辞、自動詞から他動詞を派生させる接辞について記述し、その意味関係を明らかにした。また、スワヒリ語の主題文に関して、主題が主語接辞に一致するという特異な例についても取り上げ、検討した。これは主題文の構造を類型的にみる研究成果のひとつである。

ヨルバ語については、「動詞連続構文」と呼ばれる、複数の動詞で構成される単文について分析を進め、この構文がバントゥ諸語の使役形動詞で表される文や複文に相当するものであることを明らかにした。また、この構文は多様な意味範囲を表し、複数の事象(event)を表すような場合にも用いられるが、この構文がどのような意味範囲を表すかを明らかにし、主要な事象を動詞連続構文で表す場合に、複数の動詞がどのような統語的特徴を表すのかを明らかにした。

また、ヨルバ語ではバントゥ諸語のように動詞が派生接辞などによって変化することがなく孤立的な形なので、一つの動詞が自動詞にも他動詞にもなり得る例が多く、統語構造がより重要になってくる点を明らかにした。

バンバラ語については、国内にいるマリからの留学生(バンバラ語話者)にインフォーマントになってもらい、聞き取り調査をおこない、バンバラ語の統語構造について分析をおこなった。バンバラ語もバントゥ諸語のような動詞派生形がないので、ヨルバ語と同様、一つの動詞が自動詞にも他動詞にも用いられることが多いが、自動詞として用いられる範囲が、一般的には受動文で表されるような構文にまで及んでおり、この点がヨルバ語とは異なっている。

また、形容詞がヨルバ語と同様、動詞として機能している点は同じであるが、ヨルバ語とは異なって、特別な助動詞を取る点がバンバラ語の特徴である。バンバラ語については、特に形容詞と関係節の特徴について明らかにした。ニジェール・コンゴ語族の中では、分岐の歴史の点においても、動詞構造の点においても特異な位置を占めるので、バンバラ語については、今後さらに調査、分析を進めていかなければならない。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

Komori, Junko (2016) “Event Integration Patterns in Yoruba,” *Asian and African Languages and Linguistics*, vol. 10, 197-218 (査読有)

URI: <http://hdl.handle.net/10108/85070>

Yoneda, Nobuko (2016) “Event Integration Patterns in Herero: The Case of Motion Event Components”, *Asian and African Languages and Linguistics*, vol. 10, 219 -244 (査読有)

URI: <http://hdl.handle.net/10108/85071>

米田信子 (2016) 「スワヒリ語における「～ハ～ガ」構文および類似した構文について」、『スワヒリ&アフリカ研究』27号、大阪大学大学院言語文化研究科スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室、17-36 (査読有)

小森淳子 (2015) 「バンバラ語の関係節の特徴について」、『スワヒリ&アフリカ研究』26号、大阪大学大学院言語文化研究科スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室、157-169 (査読有)

小森淳子 (2014) 「バンバラ語の「形容詞」の特徴について」、『スワヒリ&アフリカ研究』25号、大阪大学大学院言語文化研究科スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室、130-144 (査読有)

米田信子 (2014) 「バントゥ諸語における自他動詞の派生関係」、『スワヒリ&アフリカ研究』25号、大阪大学大学院言語文化研究科スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室、54-65 (査読有)

Yoneda, Nobuko (2013) “Five Level in Herero (Bantu, R31), *Five Levels in Clause Linkage*, vol.2 (project report) 1169-1216, National Institute for Japanese Language and Linguistics (査読無)

[学会発表](計 4 件)

Komori, Junko “Event Integration Patterns in Yoruba” *The 8th World Congress of African Linguistics*, 2015/8/23, Kyoto University, Kyoto, Japan.

Yoneda, Nobuko “The Integration Patterns of Motion Event Components in Herero (Bantu, R31), *The 8th World Congress of African Linguistics*, 2015/8/23, Kyoto University, Kyoto, Japan.

Komori Junko, Yoneda Nobuko, Kawachi Kazuhiro, Abe Yuko, Hieda Osamu, Koga Kyoko, Yoshino Hiroshi

“Motion Expression Patterns in African Languages” (Poster Presentation), *International Symposium on Typology and Cognition in Motion Event Descriptions*, 2015/1/25, National Institute for Japanese Language and Linguistics, Tokyo, Japan.

Yoneda, Nobuko “Conjoint/Disjoint Distinction in Matengo (N13)”, *International Workshop on Bantu Languages*, 2014/3/1/, SOAS, London, UK.

〔図書〕(計 2 件)

松田素二(編)『アフリカ社会を学ぶ人のために』(担当箇所; 小森淳子「言語」(第1部2章)世界思想社、2014年(pp.311)

パルデシ プラシャント、桐生和幸、ナロック ハイコ(編)『有対動詞の通言語的研究 - 日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』(担当箇所; 米田信子「スワヒリ語における有対動詞 派生の形式と動詞の意味を中心に」(p.351-368) くるしお出版、2015年(pp.479)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小森 淳子 (KOMORI, Junko)
大阪大学大学院言語文化研究科・准教授
研究者番号：10376824

(2) 研究分担者

米田 信子 (YONEDA, Nobuko)
大阪大学大学院言語文化研究科・教授
研究者番号：90352955

(3) 研究協力者

林 愛美 (HAYASHI, Manami)
大阪大学大学院言語文化研究科
言語社会専攻・博士後期課程